

道連ニュース

2011年10月号 No.64

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

役員・幹部職員研修会及び税務講習会は2月3日開催に ～道連第3回理事会を開催～

10月6日、ホテルポールスター札幌にて第3回理事会が池内理事（生活クラブ生協・専務理事）の議事進行で開催されました。

報告事項は①一般活動経過報告、②2011年度上半期決算報告、③北海道他からの通知等が確認されました。議決事項は、①北海道労働金庫・出資金の減資の件、②北海道ライフサポートセンターへの加盟及び役員推薦の件、③国際森林年記念講演会への協賛及び農業賞

協賛金の減額の件、④役員・幹部職員研修会及び税務講習会の開催の件でいずれも議決されました。審議事項は、①原子力エネルギーをめぐる諸問題への対応の件、②CANT署名第2弾（「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名）への対応の件で、いずれも会長と事務局での検討を継続することになりました。

理事・監事の皆様は、午後のIYCプレ北海道集会及び交流懇親会にも引き続き参加しました。

IYC(国際協同組合年)プレ北海道集会 ～フィンランドでは75%の世帯が生協に加盟し 新たな協同組合が続々と結成中です～

国連が宣言した国際協同組合年（IYC）のプレ北海道集会が、10月6日ポールスター札幌で開催されました。北海道・フィンランド協会の後援、生産性本部などの協賛のもとJ・A・J・F・森連など15団体の主催でI部・記念講演会及びII部・交流懇親会が実施されました。

来道したのは国際協同組合同盟（ICA）執行役員・EU生協委員会委員長でフィンランド生協連（SOK）国際部長のアンネ・サンタマキ女史でした（日生協国際部の2名が同行）。

I部では麻田会長が開会の挨拶を、大田原高昭IYC全国実行委員（北大名誉教授）が開会の挨拶をしました。前濱道連理事による司会進行のもと、女史は国際部の通訳を通してPDFによる①SOKグループの今、②SOKグループの組合員プログラムを紹介する

とともに、前半2名、後半3名の会場質問にも丁寧に回答されていました。1990年代初頭のフィンランド経済の停滞と高い失業率（12%）を機に、



交流懇親会では麻田会長より記念品が渡されました。新しいタイプの協同組合が誕生し、毎年200の協同組合が設立されているとの天野国際部長の冒頭報告は驚愕でした。

II部では村岡範男酪農大学教授（協同組合学会会長）もかけつけ、琴の演奏（前さっぽろ職員の師匠ら）や道連・麻田会長から記念品贈呈もあり、和やかな宴となりました。川崎一彦東海大学教授（北欧学会理事）のブログによれば、主催者側の歓迎の熱意は十二分に伝わったとのコメントでした。

尚、前日にはコープさっぽろとの交流・施設見学を行い、来年にもフィンランド生協連と協定を締結し、自然エネルギーの活用で連携を図る（10/6道新）。「リサイクル施設や、省エネ型店舗での取組みに関心をもち」、BDF化の「ノウハウやエコ店舗…取り入れるか検討したい」と話していた（10/18日経）。



フィンランドの協同組合を紹介するアンネ・サンタマキ女史

●札幌医療生協●

— おかげさまで札幌南青洲病院は15周年を迎えました —

この5月をもちまして、私たち札幌南青洲病院は、平成8年に現在の名称に変えてから、15周年を迎えることができました。これも組合員の皆さま、そして、地域の皆さまのあたたかいご支援があってこそこの15年間だと深く感謝しているところです。

これを記念して、去る6月11日、『15周年記念イベント』を開催しました。当日は、あいにくの天候にも関わらず大勢の皆さまにお越しいただきました。当生協の前野副理事長の挨拶で幕を開け、四十坊院長による記念講演、そして、札幌大谷短期

大学部中山ヒサ子氏とお仲間をお招きしてのロビーコンサートが行われました。90分の短い時間でしたが15周年記念イベントは盛況のうちに幕を閉じました。ロビーコンサートでは大いに盛り上がりました。

最後に当院院長の記念講演から、一節をご紹介します。「当院は病院全体で患者さまをケアすることができる病院です。これからも地域の皆さまに信頼される病院となるよう、一層頑張ります。」これからもよろしくお願いいたします。



この15年を振り返り講演する四十坊院長

札幌学院大学生協 ～学生マンション「ハイコート農園」が大学生に喜ばれています～

「住んでいるお部屋の窓からトマトが見えたら素敵だよ」「農作体験をしたことは青春のすばらしい思い出になるよね」「インスタントラーメンばかりじゃ体を壊すし、野菜があったらいいよね」夢のような話をしたのは、まだ雪深い寒い日でした。

札幌学院大学生協の関連会社「学生コープ総合サービス」で管理している学生専用マンション「ハイコート文京台」は管理スタッフの発案でオーナーさんの許可を得て「農作体験」の場を入居者に提供しています。



収穫をよるこび合う学生さん達

隣接するオーナー所有地を農地として、春の地均しから秋の収穫まで、学生と管理スタッフが共同で野菜を育てています。芋、トマト、大根、

人参、ネギ、枝豆など多種にわたり、収穫後に入居者に配ったり、実家のご両親に送ったりしています。札幌学院大学は文系の総合大学であり、こういった「土いじり」は講義や実習では体感できない場面であり、何物にも変えがたい貴重な体験と喜ばれています。

野幌の学生マンションにささやかにでも大きな夢を持って産声上げた「ハイコート農園」。「いつの日か君たちが社会に出た時、きっとこの体験は懐かしい思い出と青春の一齣として甦るよ」と農園管理者の吉田はその想いを語ります。



入居者と管理スタッフの皆さん

国際森林年記念講演会『C. W. ニコルと森を考える』のご案内

今年は国連が定めた国際森林年にあたりコープさっぽろをはじめ多くの団体の主催・後援により下記内容にて開催されます。当連合会も後援しており、会員生協様には既にポスター・チラシなどをお送りしていますが、ご参加可能な生協は下記宛にお申込みをお願いいたします。

- 日 時 11月18日(金)13:30～
- 会 場 道新ホール(札幌市中央区大通西3丁目 道新ビル大通館8F)
- 講 師 C. W. ニコル氏(国際森林年国内委員会委員・アフンの森財団理事長)
- 主 催 コープさっぽろ他団体(後援:北海道生協連)
- お問い合わせ コープさっぽろ 基金事務局 ☎(011)671-5651